

# 長期国債（JGB）先物オプション取引の具体例

## オプションを反対売買して決済する場合

1. 長期国債先物コールオプション(権利行使価格 139 円)を 30 銭で 1 単位買い付けた。取引代金として 30 銭×1 億円/100 円=30 万円を支払った。
2. その後、このコールオプションの価格が 90 銭になったので、転売することとした。
3. 取引代金として 90 銭×1 億円/100 円=90 万円を受け取った。したがって、60 万円の利益を得たことになる。

## オプションを反対売買しないで決済する場合

長期国債先物コールオプションの例

	オプションの買方	オプションの売方
長期国債先物コールオプション(権利行使価格 139 円)を 70 銭で 1 単位取引した。	取引代金として 70 銭×1 億円/100 円=70 万円を支払った。 (=139 円で 1 単位の先物取引の買を成立させる権利を得た。)	取引代金として 70 万円を受け取った。  ※委託証拠金の差入れ
1.先物価格 140 円で買方が権利行使を行った場合	139 円で先物取引の買が成立する。 (=140 円の先物が 139 円で買えるので、差額の 1 円×1 億円/100 円=100 万円から取引代金として支払った 70 万円を差し引いた 30 万円がこの時点での利益である。)	139 円で先物取引の売が成立する。 (=この時点で 30 万円の損失)
2.先物価格 139 円 40 銭で買方が権利行使を行った場合	139 円で先物取引の買が成立する。 (=取引代金として支払った 70 万円の一部 40 万円を回収し、この時点で 30 万円の損失である。)	139 円で先物取引の売が成立する。 (=この時点で 30 万円の利益)
3.先物価格が 138 円になった場合	権利放棄することで、損失は 70 万円に限定される。	買方が権利放棄することで、受け取ったプレミアム 70 万円が利益となる。

長期国債先物プットオプションの例

	オプションの買方	オプションの売方
長期国債先物プットオプション(権利行使価格 139 円)を 70 銭で 1 単位取引した。	取引代金として 70 銭×1 億円/100 円=70 万円を支払った。 (=139 円で 1 単位の先物取引の売を成立させる権利を得た。)	取引代金として 70 万円を受け取った。  ※委託証拠金の差入れ
(a) 先物価格が 140 円になった場合	権利放棄することで、損失は 70 万円に限定される。	買方が権利放棄することで、受け取ったプレミアム 70 万円が利益となる。
(b) 先物価格 138 円 90 銭で買方が権利行使を行った場合	139 円で先物取引の売が成立する。 (=取引代金として支払った 70 万円の一部 10 万円を回収し、この時点で 60 万円の損失である。)	139 円で先物取引の買が成立する。 (=この時点で 60 万円の利益)
(c) 先物価格 138 円で買方が権利行使を行った場合	139 円で先物取引の売が成立する。 (=138 円の先物が 139 円で売れるので、差額の 1 円×1 億円/100 円=100 万円から取引代金として支払った 70 万円を差し引いた 30 万円がこの時点での利益である。)	139 円で先物取引の買が成立する。 (=この時点で 30 万円の損失)